

プロジェクト研究課題概要書（中間評価用）

1. 課題名（期間）

「既存建築ストックの有効活用のための技術開発」
平成15年度～17年度

2. プロジェクト・リーダー（所属グループ）

勅使川原 正臣（構造研究グループ）

3. 背景及び目的・必要性

建築活動の主軸が、新規供給から既存ストックの活用へと大きくシフトする中、建築研究所においても、建築物の外的環境の変化に適切に対応するため、機能の変更や付加を伴う「再生」や「転用」を支えるための建築性能や機能にかかわる総合的な研究開発が重要になってきている。そのため、平成15年度から「既存建物の次世代に対応した室内空間拡大技術の開発」（構造研究グループ）及び「ユーザ要望及び社会ニーズに対応した目的別改善改修技術の開発」（材料研究グループ）の2課題が開始されたところである。

しかしながら、この分野の研究の将来的な発展性からみて、ソフト面を含むより大局的・戦略的な視点からの検討・取組が必要となっている。社会・ニーズ及び技術開発の動向を的確に把握して建築研究所が今後この分野で取り組むべき道筋を明確にすることや、その中で上記2課題と並行・連携して優先的に取り組むべき新たな課題の発掘・組織化が求められている。上記を既存グループの枠を超えたプロジェクト・チームにより、分野横断で機動的に進める必要がある。

4. 研究開発の概要・範囲

- (1) 社会・ニーズ及び技術開発動向の把握と法・制度面の検討
- (2) ストック活用に関わる建築研究所の研究基本方針の検討と策定
- (3) 課題間の調整・連携や共同研究実施などプロジェクト研究全体の運営と調整
- (4) 所内外へのアピールや研究成果の普及のための諸活動

5. 達成すべき目標

- (1) 既存建築のストック活用の普及方策の提案
- (2) ストック活用に関わる建築研究所の研究基本方針の策定
- (3) プロジェクト研究全体の効果的・効率的実施
- (4) 所内外へのアピールや研究成果の普及のための諸活動

6. 進捗状況

- ① 建築研究コンソーシアム及び建築振興協会会員企業等を対象としてアンケートにより、ストック活用技術開発動向の調査を年内に実施すべく作業・調整中。
- ② 5月には所内でワークショップを開催し、実施をアピールした。
- ③ 所内及び国総研との調整・連携のための会議を11月までに8回開催した。